

Sun Java™ System Administration Server リリースノート

バージョン 5.2 2005Q1

Part No. 819-2000

このリリースノートには、Sun Java System Administration Server 5.2 2005Q1 のリリース時点で判明している重要な情報が含まれています。ここでは、新機能および拡張機能、既知の問題および制限、その他の技術情報などを記載します。Administration Server 5.2 をお使いになる前に、このリリースノートをお読みください。

このリリースノートの最新バージョンは、<http://docs.sun.com/app/docs/prod/entsys?l=ja> の Sun Java System 文書 Web サイトで参照できます。ソフトウェアをインストールおよび設定する前にこの Web サイトを参照してください。また、その後も定期的に Web サイトを参照して、最新のリリースノートや製品マニュアルを確認してください。

このリリースノートは、次の節で構成されています。

- [リリースノートの変更履歴](#)
- [Administration Server 5.2 2005Q1 の概要](#)
- [このリリースで修正されたバグ](#)
- [重要な情報](#)
- [既知の問題および制限](#)
- [再配布可能なファイル](#)
- [問題の報告とフィードバックの方法](#)
- [その他の情報](#)

このリリースノートで参照先として示しているサードパーティの URL で、追加情報や関連情報を得ることができます。

注 米国サンマイクロシステムズ社は、このリリースノートで示されているサードパーティの Web サイトを使用できるかどうかについては責任を負いません。また、これらの Web サイトまたはリソースで利用可能なコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料を保証したり、これらに対して責任を負ったりすることはありません。さらに、これらの Web サイトまたはリソース上で、またはこれらを通して利用可能なコンテンツ、商品、またはサービスにより生じた、またはこれらを使用または信用したことに関連する実際の、または申し立てられた損害や損失に対しても責任を負いません。

リリースノートの変更履歴

表 1 変更履歴

日付	変更点
2005年2月2日	商用リリース
2005年2月17日	表6から表9までのパッチバージョン番号の更新
2005年2月22日	表9のLinuxパッケージ番号の更新およびSolaris 10のサポートの追加

Administration Server 5.2 2005Q1 の概要

Administration Server のマニュアルとコンソールには、製品のバージョン番号が 5.2 と表記されている部分があります。Administration Server 5.2 2005Q1 は、Administration Server 5.2 の保守用リリースです。

Administration Server とサーバーコンソールは、Sun Java System サーバーソフトウェアを管理するためのインストール可能な単一コンポーネントとして、Java Enterprise System インストーラから提供されます。サーバーコンソールは、Directory Server や Administration Server のインスタンスと連携して動作するスタンドアロン Java アプリケーションです。サーバーコンソールは Sun Java System ソフトウェアに対するフロントエンドの管理アプリケーションとしての役割を果たし、設定ディレクトリに登録されているすべてのサーバーやアプリケーションを検出したり、これらをグラフィカルインタフェースに表示したりします。さらに、ユーザー情報の追加や編集をはじめ、これらのサーバーやアプリケーションに対するユーザーの管理や設定を可能にします。

ここでは、次の内容について説明します。

- [このリリースの新機能](#)
- [ハードウェアおよびソフトウェアの要件](#)

このリリースの新機能

Administration Server 5.2 2005Q1 は、Administration Server 5.2 2004Q2 の保守用リリースです。このリリースでは、新しい機能は導入されていません。

Administration Server 5.2 2005Q1 で修正されたバグについては、[5 ページの「このリリースで修正されたバグ」](#)を参照してください。

Administration Server コマンドは、マニュアルページとして記載されるようになりました。詳細については、[8 ページの「ドキュメントに関する注意事項」](#)を参照してください。

ハードウェアおよびソフトウェアの要件

このリリースの Administration Server 5.2 2005Q1 には、次のソフトウェアが必要です。

警告

Solaris 8 Ultra SPARC® Platform Edition、Solaris 9 Ultra SPARC® Platform Edition、および Solaris 9 x86 Platform Edition に Administration Server をインストールする前に、必要な OS パッチがインストールされていることを確認する必要があります。これらのパッチは、<http://sunsolve.sun.com> からフォームやパッチクラスタとして、または個々のパッチとして取得できます。必要な OS のパッチクラスタには、パッチを正しい順序でインストールするためのインストールスクリプトが含まれています。新しいバージョンのパッチがリリースされると、パッチクラスタは定期的に更新されます。SunSolve サイトで「Patches」のリンクを選択し、リンクをたどって利用可能で必要な OS のパッチクラスタを取得します。

Administration Server は他のサーバーの管理用にインストールされるため、現実的および全体的な要件を把握するために、管理対象となる他のサーバーの RAM および空きディスク領域の条件を以下の条件に追加する必要があります。

表 2 Solaris SPARC® のハードウェアおよびソフトウェアの要件

コンポーネント	プラットフォームの要件
オペレーティングシステム	Java Enterprise System に必要なパッチが適用された Solaris 8 Ultra SPARC Platform Edition (Sun Cluster 3.1 リリース 04/04 は推奨パッチがインストールされた Solaris 8 02/02 上、および Solaris 8 HW 05/03 (PSR 2) 上での動作を確認済み) Java Enterprise System に必要なパッチが適用された Solaris 9 Ultra SPARC Platform Edition (Sun Cluster 3.1 リリース 04/04 は Solaris 9 04/04 上での動作を確認済み) Java Enterprise System に必要なパッチが適用された Solaris 10 Ultra SPARC Platform Edition
RAM	64M バイト
空きディスク領域	50M バイト 注： - Administration Server は、データのための空きディスク領域を必要としません - Administration Server は、ログのために専用の空きディスク領域を必要とします
Java	Java Runtime Environment 1.5

表 3 Solaris x86 のハードウェアおよびソフトウェアの要件

コンポーネント	プラットフォームの要件
オペレーティングシステム	Solaris 9 x86 Platform Edition (Sun Cluster 3.1 リリース 04/04 は Solaris 9 04/04 x86 Platform Edition 上での動作を確認済み) Solaris 10 x86 Platform Edition
RAM	64M バイト
空きディスク領域	50M バイト
	注： - Administration Server は、データのための空きディスク領域を必要としません - Administration Server は、ログのために専用の空きディスク領域を必要とします
Java	Java Runtime Environment 1.5

表 4 Linux のハードウェアおよびソフトウェアの要件

コンポーネント	プラットフォームの要件
オペレーティングシステム	RedHat Advanced Server 2.1 Update 2 または RedHat Advanced Server 3.0 Update 3
パッチまたはサービスパック	なし
追加ソフトウェア	なし
互換性ライブラリ	次の互換性ライブラリ <ul style="list-style-type: none"> • compat-gcc-7.3-2.96.128.i386.rpm • compat-gcc-c++-7.3-2.96.128.i386.rpm • compat-libstdc++-7.3-2.96.128.i386.rpm 64 ビット Linux を実行している場合は、32 ビット Linux 用のシステムライブラリをインストールする必要があります。
Java	Java Runtime Environment 1.5

注 Administration Server 5.2 は Sun Cluster 3.1 で検証されています。

このリリースで修正されたバグ

次の表に、Administration Server 5.2 2004Q2 以降、Administration Server 5.2 2005Q1 で修正されたバグを示します。Administration Server 5.2 2004Q2 のリリースノートについては、<http://docs.sun.com/db/doc/817-7548?l=ja> を参照してください。

表 5 Administration Server 5.2 2005Q1 で修正されたバグ

バグ番号	バグの概要
5025653	特定の文字を挿入すると JES2:ArrayIndexOutOfBoundsException が発生する
5042412	AIX 上で、SSL モードでのコンソール起動に失敗する
5047194	日本語のオンラインヘルプに不備がある
5067904	DN 内に引用符 (") が含まれる証明書がコンソールで表示されない

重要な情報

製品の主要マニュアルには含まれていない情報については、次の節を参照してください。

- [インストール上の注意](#)
- [ドキュメントに関する注意事項](#)

インストール上の注意

パッチの要件およびインストールについては、次の節を参照してください。

- [パッチ要件の情報](#)
- [一般的なインストール情報](#)

パッチ要件の情報

Administration Server に必要なパッチについては、<http://sunsolve.sun.com> の「Patches」または「Patch Portal」で確認してください。「Administration Server」のリンクを参照してください。オペレーティングシステムのパッチ要件に変更があり、Java Enterprise System コンポーネントのパッチが利用可能になった場合、更新は SunSolve から入手できます。最初は、推奨パッチクラスタの形式で提供されます。

Solaris パッケージから Administration Server 5.2 をインストールしていて、これを Java Enterprise System 2005Q1 で配布されている Administration Server と同じように運用する場合は、指定されたバージョン番号またはそれ以降のバージョンの、次のパッチをインストールします。これらのパッチは、<http://sunsolve.sun.com> で入手できます。

警告 製品の依存関係を維持するために、次の表に記載されている順序でパッチをインストールする必要があります。

表 6 Administration Server 5.2 2005Q1 の Solaris 8 (SPARC) 用の整合パッチ

パッチ番号	パッチの説明
116103-06	SunOS 5.8: International Components for Unicode Patch
117722-10	SunOS 5.8: NSPR 4.5.1 / NSS 3.9.5 / JSS 4.0
115328-01	SunOS 5.8: Simple Authentication and Security Layer (2.01)
115610-18	SunOS 5.9_sparc: Administration Server 5.2 patch
117047-17	Solaris ローカライズ版パッケージ用パッチ

表 7 Administration Server 5.2 2005Q1 の Solaris 9 (SPARC) 用の整合パッチ

パッチ番号	パッチの説明
114677-08	SunOS 5.9: International Components for Unicode Patch
117724-10	SunOS 5.9: NSPR 4.5.1 / NSS 3.9.5 / JSS 4.0
115342-01	SunOS 5.9: Simple Authentication and Security Layer (2.01)
115610-18	SunOS 5.9_sparc: Administration Server 5.2 patch
117047-17	Solaris ローカライズ版パッケージ用パッチ

表 8 Administration Server 5.2 2005Q1 の Solaris 9 (x86) 用の整合パッチ

パッチ番号	パッチの説明
114678-08	SunOS 5.9_x86: International Components for Unicode Patch
117725-10	SunOS 5.9: NSPR 4.5.1 / NSS 3.9.5 / JSS 4.0
115611-18	SunOS 5.9_x86: Administration Server 5.2 patch
117047-17	Solaris ローカライズ版パッケージ用パッチ

Linux システムでは、整合パッチには、<http://sunsolve.sun.com> から入手できる Administration Server のパッチおよび共有コンポーネントパッチが含まれており、配布 CD で提供されています。RPM の場所の検索およびインストールについては、『Sun Java Enterprise System 2005Q1 アップグレードと移行』の「Linux 共有コンポーネント RPM の適用」を参照してください。

表 9 Administration Server 5.2 2005Q1 の Linux 用の整合パッチ

パッチ番号	パッチの説明
118079-05	sun-admin-server-5.2-13.i386.rpm sun-server-console-5.2-13.i386.rpm sun-admin-server-man-5.2-3.i386.rpm sun-nspr-4.5.1-2.i386.rpm sun-nss-3.9.5-1.i386.rpm sun-jss-4.0-5.i386.rpm sun-sasl-2.02-2.i386.rpm sun-icu-2.1-9.i386.rpm sun-ljdk-4.17-3.i386.rpm sun-ldapcsdk-5.12-3.i386.rpm

Sun Java Enterprise System についての詳細は、

<http://www.sun.com/software/javaenterprisesystem/index.html> を参照してください。

一般的なインストール情報

- Administration Server を root として実行する場合、管理ユーザーが開始するコマンドもすべて root として実行されます。そのため、サーバーの root パスワードに対する機密性とセキュリティに適用するのと同じ規則を、管理者パスワードについても適用する必要があります。
- Administration Server 5.2 を Solaris パッケージからインストールする場合は、シンボリックリンクを *ServerRoot* として指定しないようにしてください。*ServerRoot* は、Directory Server、Administration Server、およびコマンド行ツールの共有バイナリファイルにアクセスするときに使用するパスです。シンボリックリンクを *ServerRoot* として指定して、Administration Server を root 以外のユーザーで起動すると、次のエラーが出力されます。

```
You must be root to run this command
```

ドキュメントに関する注意事項

マニュアルページ

Directory Server コマンドと Administration Server コマンドは、マニュアルページとして記載されるようになり、次の形式で配布されています。

- HTML 形式および PDF 形式の新しい『Directory Server リファレンス』および『Administration Server リファレンス』として
- ソフトウェアの配布パッケージとして

▶ マニュアルページを参照する

1. マニュアルページのパッケージが、次のデフォルトの場所にインストールされていることを確認します。

Solaris システム

パッケージ名 : SUNWdsman (デフォルトの場所 : /opt/SUNWdsman/man)

パッケージ名 : SUNWasman (デフォルトの場所 : /opt/SUNWasman/man)

Linux システム

パッケージ名 : sun-directory-server-man-5.2-1.i386.rpm (デフォルトの場所 : /opt/sun/man)

2. MANPATH 環境変数を変更します。

Solaris システムでは、次のコマンドを実行します。

```
$ export MANPATH=${MANPATH}:/opt/SUNWdsman/man
```

```
$ export MANPATH=${MANPATH}:/opt/SUNWasman/man
```

Linux システムでは、次のコマンドを実行します。

```
$ export MANPATH=${MANPATH}:/opt/sun/man
```

製品のバージョン番号

Administration Server のマニュアルとコンソールには、製品のバージョン番号が 5.2 と表記されている部分があります。Administration Server 5 2005Q1 は、Administration Server 5.2 の保守用リリースです。

ローカライズされたマニュアル

ローカライズされたマニュアルは、利用可能になった時点で <http://docs.sun.com/> に掲載されません。

既知の問題および制限

ここでは、Administration Server 5.2 2005Q1 に関する既知の問題について説明します。次のように分類しています。

- [インストール、アンインストール、および移行](#)
- [一般的な問題](#)

インストール、アンインストール、および移行

インストールパスが長いと Administration Server を起動できない (#4788213)

インストールパスが 54 文字を超えている場合、Administration Server を正しく起動できません。

回避策

インストールの絶対パスを 54 文字以内にします。

外部セキュリティデバイスの管理がコンソールでサポートされない (#4795512)

Sun Crypto Accelerator 1000 Board などの外部セキュリティデバイスの管理が、コンソールでサポートされていません。

回避策

外部セキュリティデバイスの管理は、コマンド行を使用して行います。

設定ディレクトリサーバーのインストール中、ログに重複値エラーが記録される (#4841576)

Directory Server の設定中、新しいサーバーのインストールごとに、サーバーグループエントリ上の ACI が追加されます。Administration Server が Directory Server よりも後にインストールされると、エントリがすでに存在し、ACI 値もそのエントリ上にすでに存在します。このような場合、次のようなメッセージが設定ディレクトリサーバーのログに記録されます。

```
[07/May/2004:16:52:29 +0200] - ERROR<5398> - Entry - conn=-1 op=-1msgId=-1  
- Duplicate value addition in attribute "aci" of entry "cn=Server Groups,  
cn=sorgho.france.sun.com, ou=france.sun.com,o=NetscapeRoot"
```

回避策

エラーメッセージを無視します。

Administration Server および Directory Server のインストール中に複数バイト文字を使用できない (#4882927)

インストールするときに、複数バイト文字をサフィックス名以外で使用すると、Directory Server および Administration Server の設定が失敗します。

回避策

サフィックス名以外のすべてのフィールドでは、1 バイト文字を使用します。

Administration Server のインストール日付が正しくない (#4908818)

Administration Server のインストール日付が正しい日付ではありません。

回避策

Administration Server のインストール日付を無視します。

サーバーコンソールまたは certutil ツールを使用して一連の CA 証明書をインポートできない (#4913224)

サーバーコンソールまたは certutil ツールを使用して一連の CA 証明書をインポートできません。

回避策

サーバーコンソールまたは certutil ツールを使用して、1 回に 1 つずつの CA 証明書をインポートします。

Administration Server をアンインストールしても .suitespot ファイルが削除されない (#4968548)

Administration Server のアンインストール時に、.suitespot ファイルが ServerRoot ディレクトリから削除されません。

回避策

Administration Server のアンインストール後に、.suitespot ファイルを ServerRoot ディレクトリから手動で削除します。

Solaris 9 x86 に Administration Server のパッチ 115611-18 をインストールできない (#4970985)

Solaris 9 x86 用の Directory Server 5.2 に同梱されている pkginfo ファイルに、間違った ARCH タイプ (ARCH=i386 ではなく ARCH=sparc) が含まれています。このため、Sun Java Enterprise System との間に不整合が生じ、パッチを適用できません。

回避策

パッチを適用する前に、次の pkginfo ファイルを手動で編集し、正しい ARCH=i386 ARCH タイプにします。

- /var/sadm/pkg/SUNWasvc/pkginfo
- /var/sadm/pkg/SUNWasvcvcp/pkginfo
- /var/sadm/pkg/SUNWasvr/pkginfo
- /var/sadm/pkg/SUNWasvu/pkginfo

Administration Server の設定で、サポートされていないバージョンの Java Development Kit (JDK) が受け入れられる (#4990183)

Administration Server にはバージョン 1.4.1 以降の JDK が必要です。Administration Server の設定中に JDK バージョン 1.3.x を使用すると、Administration Server は起動しません。警告が発行されますが、設定は中断されません。

回避策

Administration Server の設定に JDK バージョン 1.4.1 以降を使用します。

Administration Server が Directory Proxy Server よりも先にバックアウトされると、バックアウトに失敗する (#5015762)

Administration Server が Directory Proxy Server よりも先にバックアウトされると、バックアウトに失敗します。

回避策

Directory Proxy Server のバックアウトを Administration Server のバックアウトよりも先に行います。Directory Proxy Server の更新とバックアウトについては、『Java Enterprise System アップグレードと移行』を参照してください。

パッケージの再配置後 SUNW.mps ポインタの場所が正しくない (#5035882)

SUNWas* パッケージがデフォルトのインストールディレクトリ以外のディレクトリに再配置されると、SUNW.mps ポインタも再配置されます。その結果、SUNW.mps ポインタが正しいディレクトリには存在しなくなります。SUNW.mps ポインタを含むディレクトリを探すには、次のコマンドを実行します。

- Administration Server 5.2 2005Q1 の場合


```
$ ls -d 'pkginfo -r SUNWasvr' /usr/cluster/lib/rgm/rtreg/
```
- Administration Server 5.2 2004Q2 の場合


```
$ ls -d 'pkginfo -r SUNWasha' /usr/cluster/lib/rgm/rtreg/
```

回避策

SUNWas* パッケージを再配置しないでください。

SUNWas* パッケージを再配置した場合は、SUNW.mps ポインタの場所を次のように訂正します。

1. SUNW.mps ポインタを次のディレクトリに移動します。


```
/usr/cluster/lib/rgm/rtreg
```
2. SUNW.mps ポインタの宛先を、次のコマンドによって返されるパスに設定します。
 - Administration Server 5.2 2005Q1 の場合


```
$ ls 'pkginfo -r SUNWasvr' /etc/mps/admin/v5.2/cluster/SUNW.mps
```
 - Administration Server 5.2 2004Q2 の場合


```
$ ls 'pkginfo -r SUNWasha' /etc/mps/admin/v5.2/cluster/SUNW.mps
```

Directory Proxy Server Console を起動できない (#5041840)

インストール後に、設定ディレクトリサーバーよりも先に Administration Server を起動すると、Directory Proxy Server が Administration Server にアクセスできません。この場合は、Directory Proxy Server を起動できません。

回避策

Administration Server を起動する前に設定ディレクトリサーバーを起動します。

Administration Server 5.2 2004Q2 から Administration Server 5.2 2005Q1 への RPM アップグレードに失敗する (#5074779)

Linux プラットフォームで Administration Server 5.2 2004Q2 から Administration Server 5.2 2005Q1 にアップグレードするときに、次のエラーが発生します。

```
error: execution of %preun scriptlet from sun-admin-server-5.2-3 failed, exit
status 1
```

このエラーが発生するのは、RPM マネージャによって Administration Server 5.2 2005Q1 の RPM がインストールされますが、Administration Server 5.2 2004Q2 の RPM が削除されないためです。

Administration Server 5.2 2004Q2 の RPM が設定されたまま残り、プリアンインストールスクリプト (%preun) によってこの RPM の削除が阻止されます。

回避策

--noscripts オプションを使用して %preun スクリプトが実行されないようにして、Administration Server 5.2 2004Q2 の RPM を手動で削除します。たとえば、次のようにします。

```
# rpm -e --noscripts sun-admin-server-5.2-3
```

次のコマンドを実行して、Administration Server 5.2 2004Q2 が削除されていることを確認します。1 つの RPM リリースだけが返されます。

```
# rpm -q sun-admin-server
```

パッチ 117047-05 を Administration Server 5.2 RTM にインストールできない (#6200639)

Administration Server 5.2 RTM から Administration Server 5.2 2004Q2 への移行中に、ローカライズパッチ 117047-05 をインストールできません。ARCH と VERSION の値が、パッチ 117047-05 の pkginfo ファイルと Administration Server 5.2 RTM のファイルで一致しません。

回避策

このローカライズパッチを適用する前に、次の手順を実行します。

1. Administration Server 5.2 RTM を実行しているサーバーで、インストールされているローカライズパッケージごとに pkginfo ファイルを探します。たとえば、日本語のローカライズパッケージファイルは次の場所にあります。

```
/var/sadm/pkg/SUNWjdsvecp/pkginfo
```

```
/var/sadm/pkg/SUNWjdsvu/pkginfo
```

2. インストールされているローカライズパッケージごとに、pkginfo ファイルの ARCH と VERSION の値を次の値に変更します。

```
ARCH=all
```

```
VERSION=5.2,REV=2003.05.23
```

一般的な問題

admin_ip.pl スクリプトが正しく動作しない (#4892243)

admin_ip.pl スクリプトが正しく動作しません。

回避策

admin_ip.pl スクリプトの代わりにコンソールを使用します。

IP アドレスとホスト名のセキュリティの制限が、ドキュメントの説明と異なる (#4948897)

特定の形式の IP アドレスとホスト名については、Administration Server への接続に関するセキュリティの制限がマニュアルの記述と異なります。

Messaging Server の実行時に「アカウント」タブのヘルプページが存在しない (#4952871)

Messaging Server の実行中に、サーバーコンソール上で次の手順によりヘルプボタンをクリックしても、ヘルプページが表示されずエラーになります。

1. コンソールメインウィンドウで「ユーザーとグループ」タブをクリックする
2. 「ユーザーとグループ」メインウィンドウで、任意のユーザーをダブルクリックする
3. 左側のフレームで「アカウント」を選択する
4. 「ヘルプ」ボタンをクリックする

回避策

コンソールを使用してユーザーおよびメーリングリストを管理しないでください。その代わりに、<http://docs.sun.com/source/819-1054?l=ja> の『Sun Java System Messaging Server 6 2005Q1 管理ガイド』で説明されているユーザー管理ユーティリティを使用します。

x86 クラスタのコンソールから Administration Server を再起動できない (#4974780)

x86 クラスタの Solaris 9 使用時に、コンソールから Administration Server を再起動できません。

回避策

Administration Server コンソールで「サーバーの停止」を選択し、「サーバーの再起動」を選択します。

slapd デーモンをコンソールから再起動すると、デーモンが Administration Server のポートを使用する (#5002054)

slapd デーモンをコンソールから再起動すると、デーモンは Administration Server のポートを使用するので、コンソールから Administration Server を再起動できなくなります。

回避策

slapd デーモンをコマンド行から再起動します。

コンソールが英語モード以外で実行されている場合、管理者の詳細検索に失敗する (#6196837)

ディレクトリに管理者が含まれている場合でも、コンソールが英語モードで実行されていない場合は、これらの管理者は詳細検索で発見されません。

回避策
なし

再配布可能なファイル

Sun Java System Administration Server 5.2 2005Q1 には、ユーザーによる再配布が許可されているファイルは含まれていません。

問題の報告とフィードバックの方法

Sun Java System Administration Server で問題が発生した場合は、次のいずれかの方法で Sun カスタマサポートにご連絡ください。

- Sun Software Support Services
<http://www.sun.com/service/sunone/software>
このサイトには、Online Support Center、ProductTracker へのリンクと、保守プログラムやサポート連絡先の電話番号へのリンクがあります。
- SunSolve サポートの Web サイト
<http://sunsolve.sun.com>
このサイトには、パッチ、サポートドキュメント、セキュリティ情報、および Sun System Handbook が含まれています。
- 保守契約先に電話連絡してください。

最善の問題解決のため、サポートに連絡する際には次の情報をご用意ください。

- 問題が発生した状況および操作への影響などの、問題の具体的説明
- マシン機種、OS バージョン、および製品のバージョン (問題に関係するパッチおよびその他のソフトウェアを含む)
- 問題を再現するための具体的な手順の説明
- エラーログまたはコアダンプ

Sun Java System Administration Server の話題が議論されている次のフォーラムを購読すると、有益な情報を得られます。

<http://swforum.sun.com>

コメントの送付先

Sun では、マニュアルの品質を向上するために、お客様からのコメントや提案をお待ちしております。Sun へのフィードバックを送信するには、次の Web サイトのフォームを使用してください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

該当するフィールドに、マニュアルの正式なタイトルと Part No. を入力してください。この Part No. はマニュアルのタイトルページまたはドキュメントの先頭に記載されていて、通常は 7 桁または 9 桁の数字です。たとえば、この Administration Server 5.2 リリースノートの Part No. は 819-2000 です。

その他の情報

次の Web サイトには、役立つ Sun Java System 情報があります。

- Sun Java System マニュアル
<http://docs.sun.com/db/prod/entsys.05q1>
- Java Enterprise System ソフトウェアサービス
<http://www.sun.com/service/products/software/javaenterprisesystem>
- Sun Java System ソフトウェア製品およびサービス
<http://www.sun.com/software>
- Sun Java System サポートおよび Knowledge Base
<http://sunsolve.sun.com>
- Sun サポートおよびトレーニングサービス
<http://www.sun.com/supporttraining>
- Sun Java System コンサルティングおよびプロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/products/software/javaenterprisesystem>
- Sun 開発者向け情報
<http://developers.sun.com>
- Sun 開発者サポートサービス
<http://www.sun.com/developers/support>
- Sun ソフトウェア一覧
<http://www.sun.com/software>

Copyright © 2005 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

本書で説明する製品で使用されている技術に関連した知的所有権は、Sun Microsystems, Inc. に帰属します。特に、制限を受けることなく、この知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> の一覧に示される米国特許、および米国を

その他の情報

じめとする他の国々で取得された、または申請中の特許などが含まれています。

SUN PROPRIETARY/CONFIDENTIAL.

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

使用は、使用許諾契約の条項に従うものとします。

本製品には、サードパーティが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいて開発されている場合があります。

Sun、Sun Microsystems、Sun ロゴ、Java、および Solaris は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用されている、米国および他の国々における同社の商標または登録商標です。